

## 事例紹介者のまとめ

沖縄県コザ保健所 系数 公

今ここに宜野湾市の保健事業を紹介することになり、宜野湾市を所轄する保健所の医師としての立場で感想を述べる。(客観的なコメントは調査にあたった櫃本先生の稿を参照)

もともと、保健所が管内市町村の保健婦を対象に「住民参加による保健活動の推進のための実践研修」を実施したことが、この計画づくりのスタートであった。宜野湾市の保健婦もこの研修を受けて、翌年度より手作りの母子保健計画策定にとりかかった。約2年に及ぶ計画策定のプロセスの中で宜野湾市は子育て中のお母さんたちの「情報」に対する強い要望に気づき、策定委員として参加した子育てサークルと協働で情報誌づくりにすぐに着手した。ただでさえ、住民参加型の計画づくりは住民の声を拾い上げたり策定委員のコンセンサスを得るために多くの事務量を必要するため、事務局の負担は大きかったと思うが、さらに同時並行してこの事業に取り組めた背景には、事業が母子保健計画の中できちんと位置づけがされていたこと、住民のリーダーになりそうな人を策定委員に選んでいたこと、苦労して予算を確保したこと、そして課内のチームワークが良かったことなどが挙げられる。策定期間中の作業の負担感は相当なものだったと推察するが、計画を自分たちで作り上げて、さらにこうして一つ一つ事業を推進していくなかで関係者は大きな達成感を感じていると思う。

保健所としては、市町村の計画策定が円滑に進むように事務局の技術的支援や関係者に対する研修を行ってきた。また、機会あるごとに計画の進行管理のための組織の必要性を訴え、それを支援する体制として、保健所内に市町村母子保健計画推進プロジェクトチームを設けることを策定期間中から市町村に示していた。母子保健分野に限らず、このような体制を整備し市町村との関係を維持することが、都道府県型保健所における市町村支援の一つのスタイルになるのではないかという意見が保健所職員から出たことも成果の一つであった。